

## 第2回 関市まちづくり市民会議

日 時 平成24年10月16日(火)  
午後7時 ～ 午後9時  
場 所 関市役所6階大会議室

### 1 制度等説明

(1) 総合計画の仕組みとまちづくり

(2) 市の財政状況と予算編成の仕組み

(3) 質疑応答

### 2 ワークショップ

#### ■テーマ「関市の財政における課題とはなにか」

本日、説明を受けた内容を踏まえて、「行政からみた課題」「市民からみた課題」の両面から考えてみてください

- ① 発表者を決めてください
- ② 付箋紙に意見を書いてください（1つの付箋紙には1つの意見）
- ③ 一人一人発表しながら模造紙に貼ってください。近い意見があれば、発表者でなくとも、その都度貼ってください。
- ④ 発表（1分程度）

### 3 次回話題提供のテーマについて

- 1位 子育て（21point）
- 2位 教育／青少年育成関連（18p）＝教育（11p）＋青少年育成（7p）
- 3位 交通（道路維持、公共交通含む）（14p）
- 3位 環境（自然環境、住環境含む）（14p）
- 4位 防災（減災含む）（10p）

### 4 その他

次回開催日 予定：11月 20日（火）

# 「日本一しあわせなまち・関市」の実現

## マニフェストの意義

幸福という個人の価値観の領域に基礎自治体である関市が関わる趣旨は、市民の幸福追求権の充実を行政的に支援し、各市民の幸福実感度を向上させる点にある。それは、個人の幸福感が、相当の範囲で生活諸分野の満足を内包しているため、国家、自治体はその幸福問題に立ち入る余地はあり、特に基礎自治体は日常、市民の生活空間・生活領域に少なからず直接関わっているため、幸福感の影響要因を左右しうる立場にあるからである。マニフェストは、市民の幸福実現に向け行政が支援することを前面に出し公言したものである。

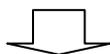
## 関市第4次総合計画・・・平成20年度～平成29年度の展望

### 《将来都市像》

改革と協働で築く自立のまち

**水と緑の交流文化都市**

～ときめき・きらめき・いきいき・せきし～



### 日本一しあわせなまち・関市

#### 《10年間で目指す5つの都市像》

- ①「健康・福祉・コミュニティ」 みんなで手を取りあい、いきいき暮らせるまち
- ②「道路・交通・情報通信」 行きかい、ふれあい、つながりが生まれるまち
- ③「産業・労働」 伝統のわざと新しい技術が織りなす力強い産業のまち
- ④「環境・都市・防災」 人と地球が共生できる安全・安心で快適なまち
- ⑤「教育・文化」 郷土を誇りに思い、豊かな心と志を持つ市民が育つまち

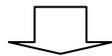
《実現方策》「行財政改革・協働」 行政目線から市民目線、管理から経営への転換

## 1 「日本一しあわせなまち・関市」を目指して 総合計画の4年間(H23.10~H27.9)の力点



### 市長マニフェスト5つの改革（マニフェスト推進計画）

- ①「市民主権、市民自治」 自分たちのことは自分たちで決める社会に。
- ②「見える市政、届く声」 持続可能性があり、信頼される行政経営を。
- ③「子育て、教育、まちぐるみ」 未来の宝、子どもたちに投資します。
- ④「弱者にやさしいまち環境」 意味ある医療・福祉・まち整備を計画。
- ⑤「関の宝を掘り起こす！」 郷土・せきブランドの発掘・発信



総合計画に市長の思い（信念・カラー）を盛り込むこと。

⇒ 後期基本計画や実施計画に反映する。

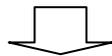
※「市長の思い」であるマニフェストは、民意を反映していると言える。

## 2 「日本一しあわせなまち・関市」を目指して 総合計画の5年間(H25.4~H30.3)の力点



### 市民アンケートの考察（まちづくり通信簿）

- ①「行財政運営」 効果的、効率的な行政経営の推進
- ②「労働力」 市内就労、市内就業の促進
- ③「市民意見の反映」 情報の取扱い、適正な手続の充実による市民意見の反映
- ④「公共交通」 便利で快適な交通機関、鉄道、バスの運行充実
- ⑤「行政サービス」 適正な行政運営、サービス向上のための組織、職員の充実
- ⑥ . . . . .
- ⑦ . . . . .



総合計画に市民の思い（重要度・満足度）を盛り込むこと。

⇒ 後期基本計画や実施計画に反映する。

## 3 「日本一しあわせなまち・関市」の達成度

市民の幸せがどのくらい実現しているかを示す「達成度」は、市民の「幸福実感度」である。この「幸福実感度」は、総合計画の目指す5つの都市像(各分野)の「満足度」を指標化することにより表すことができる。

さらに、マニフェスト5つの改革の「満足度」を指標化することで、より効果的にこの「達成度＝幸福実感度」を表すことができる。